

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

予測困難な時代に一人ひとりが未来の創り手となるために

- 1 生徒の豊かな人間交流を促し、広い視野を持つ、健全な社会人、国際人としての成長を図る。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

1 基本方針

卒業時に生徒が身に付けていること

- ・自ら考え、行動する力
- ・人を思いやる気持ち
- ・多様な人と協働できる力
- ・基礎、基本を土台とした、思考力、判断力、表現力
- ・挨拶の習慣
- ・読書習慣

2 確かな学力の育成

(1) カリキュラム委員会においてカリキュラム・マネジメントを確立し、新学習指導要領などで求められる力を育てる。

ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する。また新課程に向け新カリキュラムを検討する。

イ 「何が身についたか」の評価方法、観点別の評価方法を検討する。

(2) 授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びを通し、思考力・判断力・表現力を高めるようにする。

ア わかりやすい授業を行う。

イ 生徒が考える授業を行う。(思考力、判断力)

ウ 生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする。(表現力)

エ 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせる。

オ 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。

そのために

カ 公開授業、研究授業、授業見学、研修、授業アンケートなどを活用した授業改善に組織的に取り組む。

キ 生徒一人ひとりの能力や特性(ニーズ)に応じた個別学習や協同学習を展開し、より意欲的で深い学びを実現するため、授業力アップチームが中心となり、普通教室や各種特別教室におけるICT機器を活用した授業の研究を進める。

ク 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の第一評価をR5年度に50%以上(R2:46,47/R1:38,39/H30:35,38)にする。

※学校教育自己診断(生徒向け)の「教え方に工夫をしている先生が多い」の第一評価を17%UPさせR5年度に50%(R2:33/R1:23/H30:21)にする。

備考 評価の基準

第一評価	よくあてはまる
第二評価	ややあてはまる
第三評価	あまりあてはまらない
第四評価	全くあてはまらない

3 生徒の「やる気」スイッチをオンにする

(1) 効力感、達成感の育成

ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現をしたり、認められたりする場を広げる。

イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともに部活動参加率70%以上がR5年度に維持されている。

(H30:68 / R1:66 / R2:74)。

ウ 小学校、中学校、大学との連携を深める。また地域ボランティアなどの貢献活動を継続する。

エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。

(2) キャリア教育の推進、キャリアアンカーの形成

ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。

イ 日々の学習、フィールドでの発表や研修などを通して、自分の進路や生き方を考えられるようにする。

(3) 進路実現の支援: 4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率をR5年度に90%以上にする。(H30:80 / R1:69 / R2:84)

就職希望者の就職率がR5年度に100%に維持されている。(H30:100 / R1:100 / R2:100)

(4) 資格取得の推進

※学校教育自己診断(生徒向け)で「授業で発表する機会がある」の第一評価を、R5年度までに50%にする。(H30:38 / R1:42 / R2:43)

「ガイダンスは分かりやすい」の否定的評価(第三、四評価の合計)が、R5年度に10%以下に維持されている。

(H30:16 / R1:18 / R2:9)

「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価が、R5年度に50%以上に維持されている。(H30:53 / R1:59 / R2:71)

4 安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成する

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ 生徒が自分で判断して自らの行動を律することができるようにする。

(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 課題のある生徒についてSCと緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明示していく。

(3) 保護者連携・地域連携を一層推進していく。

(4) 働き方改革

※学校教育自己診断(保護者・生徒向け)での「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価(第三、四評価の合計)をR5年度までに、生徒向け10%以下(H30:27 / R1:29 / R2:29)、保護者向け10%以下(H30:21 / R1:21 / R2:19)にする。

5 グローバル人材の育成

- (1) 日本語指導の必要な帰国生徒・外国人生徒の指導
 ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。
 イ 日本人生徒との交流の促進
- (2) 国際交流の推進
 ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、韓国語圏）
 イ 外国の学校との相互交流の実施

※コロナ感染症拡大の状況にもよるが、語学研修の回数を年1回行い、参加者10人程度(H30:12 / R1:19 / R2:0)を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	
2 確かな学力の育成	(1) 新カリキュラム等の検討	ア カリキュラム委員会で次期指導要領の内容、新カリキュラム、観点別評価の検討をする。	ア・カリキュラム委員会 15回〔15回〕 ・職員研修 1回以上〔2回〕 ・職員会議冒頭ミニ研修5回以上〔6回〕	
	(2) 各教科を中心とした授業改善	ア・わかりやすい授業を行う。 ・生徒が考える授業を行う。 ・生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする授業を行う。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。	ア 授業アンケート「知識や技能が身に付いた」の第一評価を50%以上〔47%〕にする	
3 生徒のやる気スイッチをオンにする	(3) 主体的、対話的で深い学びをめざす	ア・ICTなどの活用 ・生徒自身の発表の機会を設ける等授業形態の工夫をする イ 教員相互の授業見学と研修 ・教育実習期間に合わせた教職経験年数が少ない教員による授業見学及び研修の実施 ウ 自主的な学習の推進 ① 授業以外の学習時間を前年比10%以上の増加を図る。 そのために、2年生の早期に受験勉強のスタートを切らせる。 ② 読書習慣を身につける。 一年生の朝の読書活動は昨年度の反省を踏まえ、よりよい形態を考える。	ア 生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価を39%〔33%〕に、「授業で発表する機会がある」の第一評価を46%〔43%〕にする イ 教員自己診断「指導方法の改善・工夫が行われている」の第一評価を31%〔21%〕にする ウ ① 学習時間目標（平日）を 1年生 50分〔44分〕 2年生 30分〔25分〕にする。 ② 1年生全員が1年間で一冊以上の本を読む。	
	(1) 効力感、達成感の育成	ア 部活動参加率を上げる。部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の加入率を高める。 イ 地域連携 地域の小中学校への出前授業や、他の機関との連携、オンラインを含めた交流を通して地域に根差した学校とする。	ア 部活動加入率70%以上を維持する〔74%〕 イ コロナ感染状況を見極めつつ、3つ以上の交流を実施する。	
	(2) キャリア教育の推進	ア 「産業社会と人間」から始まる3年間のキャリアプランの作成 ・2,3年生のキャリア教育の充実	ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価50%以上を維持する〔71%〕	

		<p>イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。</p> <p>ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。</p> <p>ア 生徒が資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。</p>	<p>イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価（第三、四評価の合計）10%以下を維持する〔9%〕</p> <p>ア 3学年当初の4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率を90%以上にする〔84%〕 就職内定率100%を維持する〔100%〕</p> <p>ア 受験者数の増加 ・漢字検定受験者数50名以上〔48名〕 ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数40名以上〔33名〕 ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率(パソコン検定など80%以上維持)〔100%〕</p>	
4 安全で安心な魅力ある学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成</p> <p>(2) 課題のある(困り感のある)生徒の支援</p> <p>(3) 保護者連携・地域連携の一層の推進</p> <p>(4) 働き方改革</p>	<p>ア 規範意識を持たせる。生徒が指導の目的を理解した上での指導の実践</p> <p>イ 情報リテラシーの育成。特にSNSの利用について、研修や授業を通してリテラシーを高める。</p> <p>ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会を継続実施</p> <p>イ 生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図る ・「保健だより」等を活用した窓口の周知、教職員からの声掛けを継続する。</p> <p>ア 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。</p> <p>ア 会議でのペーパーレス化を進める。</p>	<p>ア・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価を45%〔42%〕にする ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価を42%〔37%〕にする</p> <p>イ 生徒向け自己診断に新たな項目「情報機器やSNSを使用する際にルールを守っている」を設け、第一評価を40%にする。</p> <p>ア 支援・教育相談委員会を月1回程度開催〔5回〕</p> <p>イ 自己診断(保護者・生徒向け)「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価(第三、四評価の合計)を、生徒向け22%にする〔29%〕 保護者向け15%にする〔19%〕</p> <p>ア 保護者向け自己診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の第一評価を33%にする〔24%〕</p> <p>ア 1回以上の実施</p>	
5 グローバル人材の育成	<p>(1) 日本語指導の必要な帰国生徒外国人生徒の指導</p> <p>(2) 国際交流の推進</p>	<p>ア 合格発表後、早期からの高校生活支援を継続するとともに日本人生徒との交流を促進する</p> <p>ア 生徒の短期語学研修の充実</p> <p>イ 外国の学校との相互交流の実施</p>	<p>ア 文化発表会等による自国文化の紹介を年2回実施する。</p> <p>ア 短期語学研修参加者10名程度〔0人 コロナ禍のため〕</p> <p>イ 1校以上の交流を受け入れる〔0校 コロナ禍のため〕 オンラインによる交流など可能な形での実施を模索する。</p>	